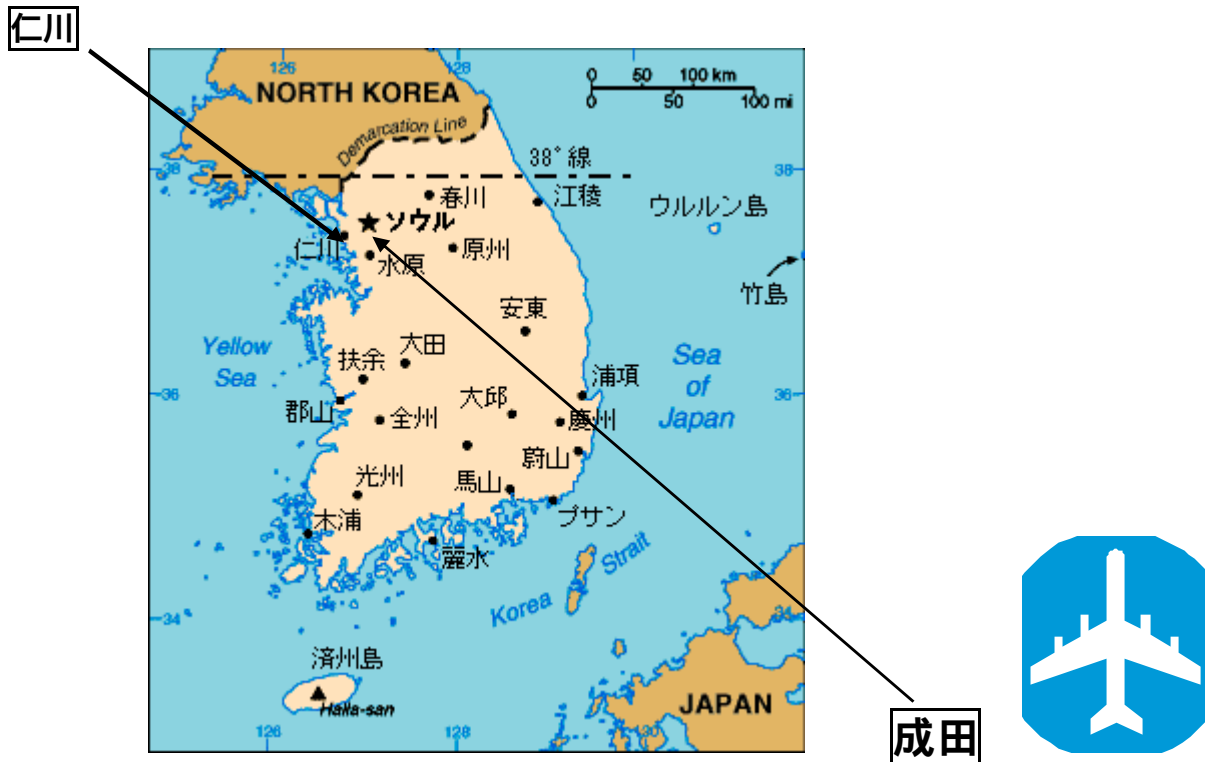


韓国（1997年）

韓国を訪問する機会を得た。目的は仁川にある大宇の車両工場を診断するコンサルタント業務である。成田を離陸した大韓航空は日本アルプスを越え、ソウルに向かう。2月の晴天、機窓から白銀に輝く北アルプスの山々が望まれ、記憶に残るフライトであった。



ソウルの金浦空港で商社の人のお出迎えを受け、町中のホテルへチェックインする。早速、韓国料理のもてなしである。**プルコギ**、名前は知っていたが、食べるのは初めてである。



焼き肉（プルコギ）に続いて、カラオケが始まる。薄暗い部屋の中、**紫色の口紅**で化粧したカラオケ嬢からマイクを渡された。韓国語はわからないし、美人ではあるが、ツンとすました彼女を相手にするのは苦痛である。酔いに任せて歌うしかない。

翌朝、車で仁川に向かった。片側4車線か6車線か忘れたが、道路幅が100mと広い直線路を走る。この道路は有事のとき、軍用機が着陸出来るように作られたという。仁川まで約50km、1時間強のドライブである。緯度は仙台と同じくらいだが、積雪はない。周りの山の落葉した木々には、鳥たちが残した大きな巣が黒い陰を映している。

大宇の工場に到着、カニとハムサラダを連想して覚えた韓国語で挨拶を交わす。“**カムサハムニダ**”。準備してくれた防寒着に身を包み、工場を見学したあと、コンサルティングのプレゼンテーションを行う。日本語がわかる人がいたので、時々日本語を交え英語でやったが、どれだけ理解してくれたかは疑問である。

プレゼンテーションが終わると、丘の上にある料亭に案内された。座敷は韓国式床暖房装置（**オンドル**）で暖かい。地域暖房として市が各所に蒸気を供給しているとの説明を受けた。昔の船内暖房が蒸気で行われていたのと同じシステムである。

テーブルには海鮮料理を初め、ご馳走と韓国焼酎がふんだんに準備されている。日本語と英語のチャンポンで歓談しながら、勧められるまま韓国焼酎を胃に流し込む。長年誇ってきた造船量世界一の座を韓国に奪われた悔しさに、彼らに負けじと酒を飲む。しかし、酒豪揃いの彼らに舌をまく。韓国式接待が続く中、韓国人のキムチパワーを実感して、深夜ソウルへの帰途についた。



大宇の人たちと



韓国式乾杯？

ソウルに戻った翌朝、ホテルから歩いて行ける**南大門**を観光した。ソウルの街を守る目的で14世紀に造られた城郭である。正式な名称は**崇礼門**だが、城郭の中で最も南にあることから南大門と呼ばれている。

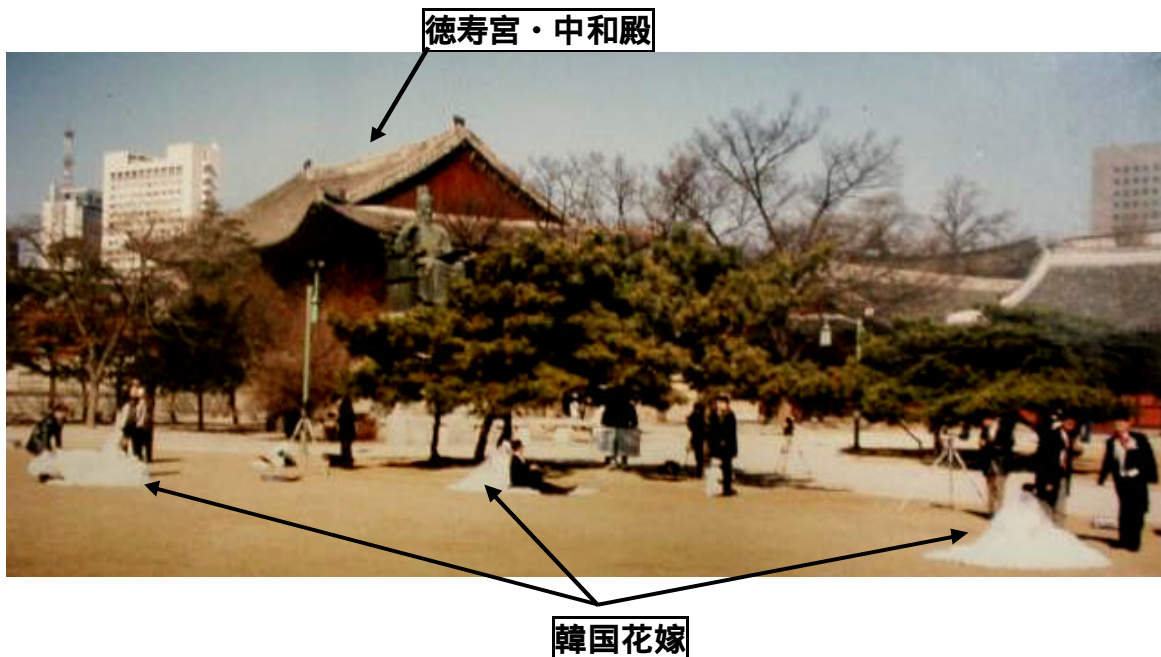


徳寿宮・中和殿



南大門

南大門から**徳寿宮**まで歩いた。約500mの距離である。朝鮮王朝最後の王宮で、ここ中和殿が王様の寝所となっていた館である。境内では結婚式を終えた数組のカップルが記念撮影をしていた。韓国花嫁の白無垢のチョゴリマは晴天の冬空に輝き、まばゆいばかりであった。



日本に最も近い国、韓国への2泊3日の海外出張で、その国を垣間見ることができた。

ビルマに滞在していたとき、韓国人プレーヤーがゴルフ場のキャディーを殴打したため、韓国人のプレーを禁止するという騒ぎがあった。今まで、ゴルフマナーの悪さやトラブルメーカーとのうわさが気になっていた。今回の訪問で初めて韓国の人達に接して、ビジネスマナーに関しては問題なしとの感触を得た。

プルコギ、キムチなど韓国料理を満喫し、昼食のカルビを胃袋一杯に詰め込んで、成田行き大韓航空の搭乗ゲートに向かった。